

令和3年度第1回諫早市まちづくり総合戦略推進会議会議記録（要旨）

日時：令和3年11月25日（木）

10：00～12：00

場所：諫早市役所5階 大会議室

【会議次第】

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 市長あいさつ
- 4 会長の選出
- 5 職務代理者の指名
- 6 協議事項
 - (1) 諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について

【要旨】

委員

企業誘致について、工業団地が出来てきているが進捗はどうか。

大村市への転入転出の理由で、その他が転入で14、転出で31と差が大きいがその他の理由がわからないか。

最低賃金の資料について、本会議では諫早にフォーカスをあて議論をすることとなるが、県の最低賃金はわかるが、諫早市の最低賃金や平均賃金はどのような状況なのか。

事務局

南諫早産業団地は、1工区が令和3年5月に完成し企業誘致の対象となっている。企業誘致については、昨年、市はコロナ禍で積極的な企業訪問による誘致活動が出来ていないが、県の産業振興財団が県全体の誘致活動をオンライン等で行い、その中で諫早市への誘致も行った。これまで、企業から電話や窓口での問い合わせなどがあっているが、現時点では誘致に至っていないので、引き続き長崎県と連携を図りながら企業誘致を進めていきたい。

会長

問い合わせがあっているのはどのような企業か。大手や上場企業からの問い合わせもあるのか。

事務局

製造業、流通、医療関係など幅広い業種からの問い合わせがあり、流通関係の問い合わせが最近多い。

大手からの問い合わせもある。企業から直接ではなく代理会社からの問い合わせもあり、業者の規模など詳細がわからない場合がある。

転入転出のその他の内訳につきましては、確認して後日お知らせしたいと思います。

諫早市の最低賃金や平均賃金については、今資料を持ち合わせていない。

会長

もし諫早の賃金の状況がわかれば後日報告をお願いします。

委員

起業相談を行っているが、その相談が起業に結び付いた件数は。また、ポストコロナでデジタル化が推進されているがデジタル化に関する相談があったのか。

事務局

創業支援の融資を12件行っており、令和3年度は14件実施している。

デジタル化に関する相談件数は後日お知らせする。

委員

多様な視点を持った人の活用ということで、活用割合が21%から45%と増えているが具体的にどのような事業に活用しているのか。

事務局

市で行っている132事業を調査し60事業で活用しているという状況。主な事業内容としては、圃場整備事業後の市外の方の参入や女性活躍推進の企業支援や再就職セミナーなどで市外からのセミナー受講、地域おこし協力隊員の導入などがある。

委員

福祉医療について諫早市が現物支給になる可能性があるのか。県内他の市で現物給付のところがあるのか。

事務局

乳幼児については県内全域で現物給付になっている。小中学生については県内まちまちで、長崎市、長与町、時津町が現物給付を行っている。長崎市では諫早市の病院を受診した分についても現物給付を行っている。このような状況を踏まえて現物給付の検討をしている。

委員

福祉医療では800円の限度額を超える分を市が補助していると思うが、その金額はどのくらいか。

事務局

令和元年の市の負担が乳幼児は約1億5600万円、小中学生が約9700万円となっている。

委員

保育料などが3歳以上で無償化となっているが、多くは1歳になるころから職場復帰し保育園に預けるが、それと同時に子どもは様々な病気にかかり、1歳から2歳にかけては、保育園に行けないくらい頻繁に病院にかかる。たとえば、1歳から2歳の間に仕事に行かなくても良いような選択肢や月に5万円位の支給などがあれば、その間は仕事をせずに子どもに向き合うことが可能となり、病院にもかからなくてよくなる。医療費を減らすためそのような給付ができないか。子どもと向き合う時間がなく、タブレットやスマホ等での育児が小中学生になったときの不登校や昼夜逆転などにも結び付いているので、子育ての支援をトータルで検討していただければ。

事務局

諫早独自で5万円の給付制度が出来ないかという点については、この場ではお答えはできない。以前は3歳までは自分で育てるという考えがあったが、現在では子どもと1日過ごすことにストレスを感じるという保護者もいる。このような状況なども踏まえ、短時間保育などの選択肢もある。

会長

人口減少対策の中では子ども目線というか、子育て優先という視点が重要だと思うのでよろしく願いしたい。

委員

小長井町が過疎化ということで、補助金により、いろんな事業が検討されていくと思われるが、小長井の魅力上げるような事業がないと人口は増えていかないと思う。私の考えだが、試験的でもよいので、保育料や給食費の無料化とか、小長井から通学するときの通学費の助成、若い方が住宅を借りたりしたときの補助とか魅力的なことすれば人口は減っていかないのではと感じる。高齢者の一人暮らしの方とかは、高来までは大きな店があるが、小長井に入るとお店が無く、買い物に行くのが困難で買い物難民となっている。買い物券とかを発行し配達を行ってもらおうとか、そういうことが出来ないかと思っている。

事務局

小長井地域が過疎地域に指定されたことにより、過疎の計画を策定したところだが、現行の計画については、まだ既存の事業が中心となっている。今、委員が言われたような支援策ができないかというところは、市で現在検討中で、市の中の一部である小長井地区が過疎に指定されたということで、地域間のバランスなども考慮しながら方向性が見えてきたら地域の方にも説明しながら進めていくことになる。

委員

諫早の中でバランスをとるのはわかるが、小長井の試験的な取組を、太良町とか県全体に発信してみればプラスになると思う。

委員

先ほどの買い物や過疎化についての質問の関連で、飯盛では住民主導で取組んでいて、特養いいもりの車を利用した買い物の送迎など自分たちで出来ることをやっている。地域の事業者とかにも中に入ってもらい地域にあるものを利用している取組もあるので参考にいただければ。

会長

社会的な課題を解決する方法はいろいろあると思うが、今後はNPO法人というのも重要だと思っている。高齢者の就労支援ということで、シルバー人材センターの指標のみとなっているが、NPO法人など活用などもあるのではないかと思うがそれだけでよいのでしょうか。高齢者の活用という点で、自治会連合会としてご意見をどうでしょうか。

委員

先ほどの小長井地域の活性化についての話しになるが、小長井漁協の販売所によく行くが、様々魚が売ってあり珍しく面白いのもっと利用してはどうかと思う。高齢者は時間があり、アイデアも持っているので活用してほしい。

会長

NPO法人に所属している委員に伺いますが、NPO法人の社会的課題解決への活用についてどう思われますか。

委員

我々のところは山林の管理を目的として設立された法人であるので地域課題を解決するということと直接は関わっていないが、市から委託を受けたしゃくなげの植栽とか、市民が山に親しみを持てるような取り組みなどを行っているところ。

せつかくなので私からもお尋ねしたいのですが、空き家バンクについて、私の住む地域でも空き家が増えているが、実績が3件ということで数値はもっと増やせないのか。また、昨年から高来町の小江地区の有志でエゴマの栽培を行っており、ゆくゆくは諫早の特産品になればと思ってやっているが、このような新たな芽を育てていただければと思う。

事務局

空き家バンクについては、民間の不動産業者が扱っている物件については対象外であることや空き家の所有者がわからないとか相続の関係が解決していない、所有者が愛着があって手放せないなどがあり登録に結び付かないというところがある。令和2年度から自治会連合会にも協力をいただき、空き家の情報などを募集するような班回覧を行っている。今後はPRの強化も図りながら空き家の掘り起しも行いたい。

農産物につきましては、ブランド化やPRによる販路拡大を行っており、伊木力のミカンや幻の高来そば、ジビエ、唐子れんこんなどのブランド化の支援を行っている。技術指導関係については、県の振興

局などと連携しながら支援が出来るのではないかと。

委員

いろいろな取組をされていると思うが、諫早が目指すものがなかなか見えない。そこそこの目標しかないのでは間違いがないというのはあるが尻すぼみになっていくので、「諫早モデル」というような、諫早はこれを始めましたというものがあれば話題になってよいと思う。合併した平成17年にネット環境の整備について市長さんをお願いしたが、やっと十数年たって今来ている。道の駅についても話題にもならないような状況で、このような会議で意見をだしてもそこそこで終わってしまうので、行動するというを考えてほしい。

会長

いま道の駅のことが出てきましたが、どのようになっていますか。

事務局

道の駅については以前から整備の計画があり、実施主体がカギになるが、飯盛の方で実施主体に手を挙げていただいている団体があり計画を進めている。

委員

小長井あたりで作れないか。

委員

小長井の漁協あたりはすぐに展開できると思うが、地域の方が気付いていない魅力もあるので、意欲があればもっと面白いものが出来ると思う。

会長

新幹線が来年開業するが観光コンベンションの関係で地場製品の売上についてどうでしょうか。

委員

コロナの状況の中では頑張っているのではないかと考えている。

大村と諫早の件に関してですが、諫早としては、企業誘致や土地政策とか様々な取組をして頑張っているのに都市間競争では負けている。その原因がなんなのかというのを事務方や専門家で説明していただくことで、人口減少が少しでも解消するのではないかと考えているので、ぜひ検討してほしい。

事務局

土地政策や規制の問題など様々な要因があると思うがすべてがそこにあるか分析はできていない。制度的には諫早が進んでいるところ、諫早が有利なところなど総合的に分析する必要があると思うので関係部局と相談しながら進めていきたいと思っている。

委員

スポーツツーリズムやスポーツ交流の計画があるが、2024年にV・ファーレンのホームが移る状況で、目標を達成するにはテコ入れが必要と思っているが、その考えを聞きたい。また、コロナの影響で出生者数が減っていて、令和2年が956人、令和3年はさらに少なくなるのではと個人的には思っている。少子高齢化、人口減少の対策として、出生数の増加や出会いの場の創出には取組んでいただきたい。あと、初婚年齢が高くなっており、妊娠しづらい体質になってしまうと思うので、不妊治療などの補助の拡充なども行っていただければと思います。

事務局

婚活の件についてですが、コロナウイルスの関係で令和2年度は対面式のイベントが出来ずスマホ等でメッセージを交換するようなイベントを実施し、参加されたのが119人で17組のカップリングがありました。先般、この中の1組から結婚しましたとうれしい報告をいただいている。今後の婚活イベントについては、まずはコロナ前の状況に持っていきながら、新たなイベントなども検討したい。

スポーツ関係については目標が24万人に対して14.7万人ということで、やはりコロナの関係で大会等の自粛があったのが要因であったと思います。ただ、諫早市はスポーツ施設が充実しており、スポーツコンベンションということで合宿等の補助金や最近では本明川のボートコースなどを前面に出しながらPRして、先日は早慶レガッタも開催しており、V・ファーレンに限らず、様々なスポーツで諫早を訪れる方をたくさん誘致するという取組んでいきたいと思っている。

委員

高齢化社会は気にしているところで、今後は、先ほど飯盛のように地域ぐるみで協力する必要があると思っている。空き家バンクについて、空き家はたくさんあるが、空き家バンクの登録条件で、住める状態でないといけないなどあるのか。結の浜がありキャンプに来た人やペーロンの時期には、空き家の問い合わせはあるが、若い人は水回りとかが住める状態でないとお金がかかるためなかなかうまくいかない。市の方で水回りを改修し空き家バンクに登録というのが出来ないか。

会長

例えば、実際にリフォームしなくても、今は図面だけでも改修にいくらかかるとか提案することもできる。誰がやるのか、民間なのか市が補助するのかそういうのも含めて検討する必要があると思う。目標が3件というのは戦略性がないと思うのでぜひ検討してほしい。

時間となりましたのでこれで終了したいと思います。